

10月度議員懇談会

## キャラクターを活かした地域振興について懇談



10月度議員懇談会を10月2日11時より福井商工会議所ビルにて開催。議員72名が参加した。

開会にあたり八木会頭から挨拶が行われた。まず、9月10日に開催した陸海空自衛隊福井市中パレードについて述べ、2万人の県民の前で、航空機や装甲車両、多数の自衛隊員が壮大な行進を披露いただいた。自衛隊幹部の方からも隊員の訓練成果を披露する場として感謝を受けたと振り返った。

続いて、北陸新幹線に関する話題として、新幹線の試験車両であるEas-ti（イーストアイ）が9月23日に福井県内へ入線したこと、そして10月1日には営業用車両であるW7系車両の



開会の挨拶を行う八木会頭

試験運行に併せて、県内の新幹線各駅で歓迎セレモニーが行われことに触れた。福井駅には約300名の市民が参加し、特に子供たちの楽しむ姿が印象に残ったと振り返った。福井開業が近づき、都市圏でも福井開業の話題を聞くことが増えた。開業までの準備とともに、開業後も持続的な発展と経済交流の活発化のために取り組んでいきたいと意気込んだ。

最後に、ハワイ、マウイ島での山火事被害に対して、議員企業に協力いただいた義援金について、友好連携しているホノルル日本人商工会議所を通じて、復興支援のために活用していきたいと感謝を述べた。

続いて卓話に移り、福井工業大学経営情報学部教授の野澤智行氏より「キャラクターを活かした地域振興について」として講話が行われた。

野澤氏がこれまで関わってきた当地キャラクターのプロデュースの経験をもとに、ご当地キャラクターのこれまでの歩みや現状について述べた。

まず、キャラクターは、性別年代を問わず多くの人から好感を得られやすく、また、活用することで、注目が集まり、活用企業への興味や好感度が高まりやすいという考察を示した。



野澤氏による卓話の様子

一方で、ご当地キャラのブームについては、2000年代後半からの隆盛期、2010年代前半の最盛期を経て現在は安定期を迎えていると解説。

キャラクターの活用については、商品への集客や注目を集めるガイド役となることや、キャラクターが、住民の地元に対する誇りにもつながることが期待できると分析。ご当地キャラブームが落ち着いた今、業界内では活動が盛んでも、一般知名度は普及していないキャラクターが多くいる。そういったキャラクターと企業がコラボすることが地域を盛り上げるきっかけになるのではないかと締めくくった。